「どこよりも。」「ここだけ。」

「日本一づくり運動」知事対談より

「浜野　「くまもと日本一づくり」について、知事のおっしゃっていることを私なりに解釈したり、地方の村や町に行って考えてきたことは、くまもと日本一づくりというのは、やたら日本一大きいとか日本一数が多いとかいう物量の問題じゃなくて、地域それぞれの個性というものをどうやって創り出していくか、そう言ったいわば、どこよりも美しいとか、ここだけにしかないということの出来る多元的な意味と意図をもたせたいと考えておられるのだと解釈しているのです。」

細川　護熙（熊本県知事）

「知事　よく地域の特性を生かすということが言われますけれども、単純に産品がどうだとか、観光資源がどうだとか言うことでなく、目にはなかなか見えないけれども、例えば秘峡とか、キリシタンとかいった漠とした地域イメージ、これをどうやってクリアなものに表現、演出していくか、つまり地域デザインをしていくかという視点が、地域の個性を創っていくうえでいちばん大切だと思いますね。」

●

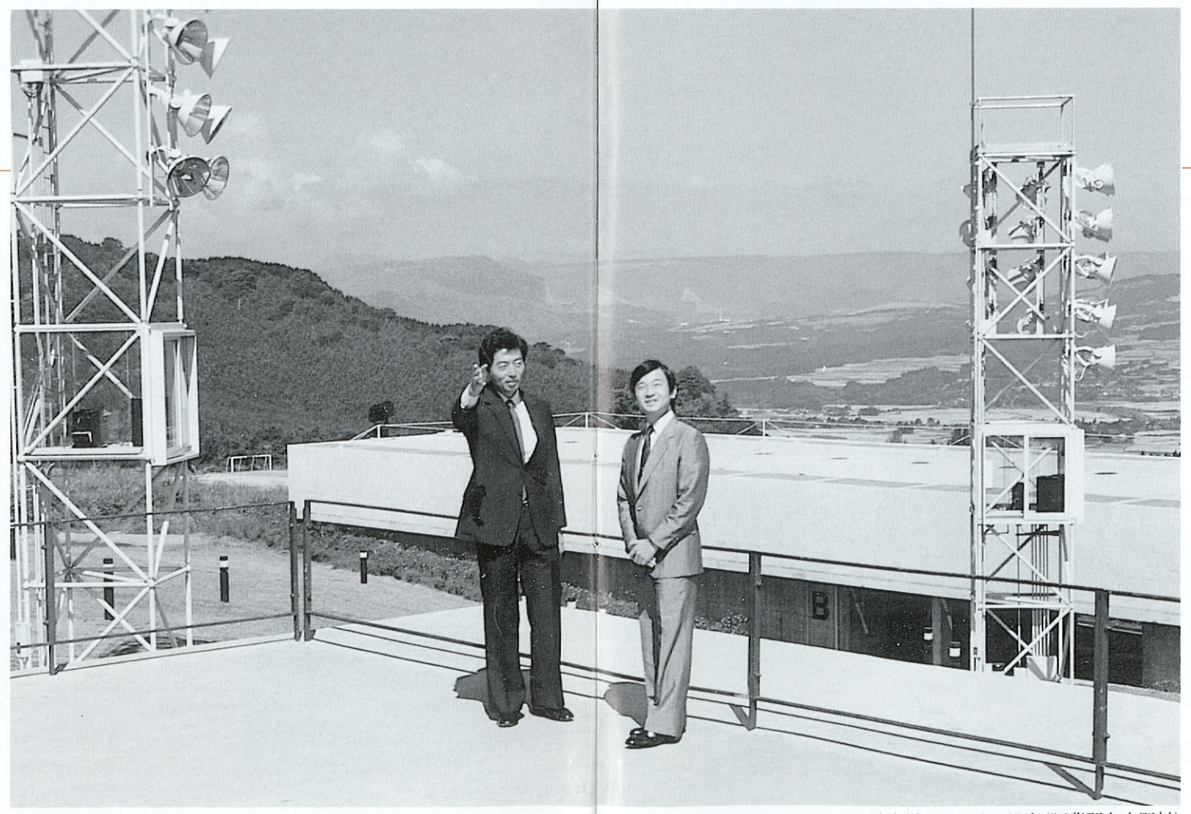
「浜野　やっぱり、筍でも京都がうまいというでしょう。じゃ、どうして熊本よりうまいのか。京都と比べながら研究したことがありますか？あるいは、熊本の中に、俺の筍は京都より絶対うまい、と自信持っている親父さんがいますか。そういうマイナーを見つけてこないと、やっぱり駄目なんじゃないか。それをメジャーに置き替えていったらいいんだから。もしそのマイナーな一人をピックアップして、それをワーッとクローズアップさせれば、それで全体の熊本の筍がボトムアップするわけですから、みんなでという前に、誰か一人キーパーソンをピックアップすることが、ものすごく大事です。そこから、「日本一」なんて簡単に覆されるかも知れない。」

「知事　おっしゃるように、マイナーだけれども確かなリーダーや小さな成功例、そういうものをうまくテコとして活用して全体のイメージ、レベルを高めていくことが大事ですね。もちろん、行政ですから特定の人や地域やモノに傾斜することは出来ませんが、それはPRなどのやりかたの問題で出来ることだと思いますね。」

●

「知事　今のような新しい時代の流れの中では、地域の自己主張がどれだけ評価されるか、又地域のエネルギーをどう引き出すかがカギだと思います。県土デザインの中でも「新しい田園文化圏の創造」をかかげていますが、これは、人が行ってみたい人が行ってみたい、住んでみたいと思えるような地域づくりなんです。緑豊かな環境の中で知的な生産活動の出来る場づくり、つまり、住んでいる人がそれぞれ心豊かに生き生きと創造的な活動をしている。そういう熊本を創り出して行きたい。それが日本一づくり運動の目標だろうと思っています。」

浜野　安宏
（㈱浜野商品研究所所長）

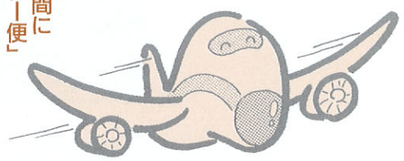


浩宮様アスペクタご視察（阿蘇郡久木野村）

「熊本―香港間に定期チャーター便」

十一月二十三日から、熊本―香港間に週二便の定期チャーター便の運航が開始されました。同航空の日本向けの定期便はこれが初めてで、熊本では、ソウル便に次ぐ国際線の定期便乗り入れとなります。

この定期便をきっかけとして、熊本空港の国際空港としての一層の振興が期待されます。



「熊本型新木造住宅」開発

このほど県では、ヒノキ、スギ等県産材消費の拡大を目指し、構造などに独自の工夫を凝らした「熊本型新木造住宅」を開発しました。

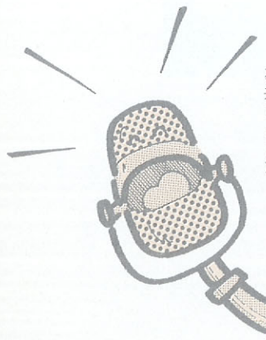
従来より木材の使用量が二十%多く、木材乾燥度の基準を設けたり、防火性能を高めた工法などが特徴で、今後民間との協議を進め、六十四年度からの販売を目指しています。

県民提案に「知事賞」

「明日の熊本農業への私の提案」のテーマで八月一日から九月十五日までの期間で募集したところ、六十五編の応募があり、審査の結果、次のとおり入選が決まりました。なお知事賞が授与されるのは、昭和五十九年度県民提案制度創設以来始めてのことです。

入選
知事賞
市原　正（一の宮町坂梨六九七）
優秀賞
奥田公人（岡原町岡本三六）
佳　作
高森孝視（熊本市）
森　秀吉（宇土市）
前田一洋（泉村）
結城健一（御船町）
加藤邦子（本渡市）
坂梨二郎（本渡市）

「県庁スピーチコンテスト」開催

県庁の若手職員によるスピーチコンテストがこのほど行われました。

「県職員も、人前で自分の考えを整理して発表することが必要」との考えで、三十五歳以下の若手職員を対象に、初めて企画されたもので、本庁や各県事務所単位のブロック大会を勝ち抜いた十四人が、「私と地域社会」「語学研究に伴う自費留学制度の創設について」など日頃考えていることを四百人近い職員を前に発表しました。